

# 私達が理想とするまちの姿

## 【目次】

### ①子育て・教育

- ・子育て世代に優しく、自然の中でのびのび子育てできるまち・・・・・・・・・・ 2
- ・夜道も安心安全で明るいまち 専用歩道の環境が整った安全なまち 水戸市・・・・・・・・ 3
- ・子育て世帯の居場所があるまち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ・学校教育の環境が整い、安心して子どもたちが学び生活できるまち・・・・・・・・ 4
- ・教育のまちMITO・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ・どんな環境で生活する子どもでも高水準な教育を受けられる  
「子どものための教育施策により移住者に選ばれるまち」・・・・・・・・・・ 6
- ・家庭で子どもと接する時間とお金の余裕を増やせるまち・・・・・・・・・・・・ 7

### ②みとで働く

- ・産業が盛んで、雇用が創出されるまち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ・若者が能力・個性を発揮できるまち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ・大人になっても学べる・スキルアップできるまち・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

### ③ON/OFFもみとでいられるまちづくり

- ・文化財が伝える、郷土の伝統が息づくまち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- ・ウォーカブルシティ・水戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- ・子育て世帯にとって便利で快適な生活空間が広がるまち・・・・・・・・・・・・ 11
- ・安全の魁のまち水戸市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- ・「よそもの」移住者でも仕事・家・主要地とのアクセスなど生活基盤を確保しやすいまち  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- ・自然環境にやさしいまち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

## ①子育て・教育

### ・子育て世代に優しく、自然の中でのびのび子育てできるまち（提言書P2）

私の理想とする住環境は、すべての子供がそれぞれ夢中になって全身で、頭や指先もいっぱい使って遊べる環境です。ここでは、住宅街などにある小さな公園にも整備が行き届いていることから、子供達が安全に遊ぶことが出来るため、多くの子供達でにぎわっています。

子供は遊びの中から自力で成長する力を持っているため、子供がそれらの環境の中で夢中になって遊んでいるうちに、自ずとこれからの時代を生きぬくために必要な資質（健康な体、体を思った通りに動かせる能力、持久力、集中力、観察力、好奇心、自分で考える力、豊かな感性）を育むことができます。

私がつくりたい水戸市では、そのような力を持った子供が安心して夢中になって走り回ったり飛んだり跳ねたり転がったり、そんな遊びができる環境が整っているため、自ずと生きる力の基礎を身に着けることができます。

具体的には、大きな公園（少年の森・森林公園）では幼児が遊ぶエリアと小学生が遊ぶエリアが分かれており、年齢や体格に関わらず安全に遊ばせられる環境が整っています。また、遊具については、定番である滑り台やブランコの他、鉄棒やうんていなど小学生位の子供達が体力づくりに使用できる様な遊具もバランスよく設置してあるとともに、芝生等が整備されていることから雨上がりでも泥だらけになりにくい環境となっています。

水戸市にある自然豊かで広大な都市公園や屋内遊戯場などが最大限活用された環境で成長した子供は、自立した優秀な人材に育ち、将来の水戸市を担ってくれるようになるでしょう。

また、子供が成長して就学などで一時的に地元を離れたとしても、幼少時の楽しかった思い出があるため、自らの子育てのタイミングでやはり水戸市で子育てしたいと帰ってきてくれる好循環が生まれています。

さらに、長期スパン以外の視点においても、子育てしやすい環境が整っていることによって、移住する子育て世代が増え、若い世代が増えて活力のある市となっています。

これらを要約すると、私が作りたい水戸市の姿は、子供がのびのび遊ぶなかで健全に育つ市、一度地元を離れたとしても帰ってくるほど魅力的な市、子育て世代が今すぐ移住したくなる市です。

以上により、「だれでも、いつでも、どこでも、安心して遊べる環境がある」ため、子育て世代の移住定住先として選ばれています。

#### （備考）

水戸市は、自然豊かで広大な都市公園が多数あり、子育て世代にとって大変魅力的な都市です。しかし、それらの魅力は「知る人ぞ知る」状態で、移住者にはほとんど知られておらず、魅力アピールが足りていないと感じる部分が多々あります。また、屋外の公園などの環境は比較的整っていますが、悪天候時の屋内遊技場等については全くもって不足しているといえます。

○子どもがのびのび遊べる環境のイメージ



国営備北丘陵公園

<https://www.bihokupark.jp/special/act/play/279>



HIROHAI 佐伯総合スポーツ公園大型遊具

<https://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/site/citypromotion/63971.html>



Hi タッチらんど・ハレニコ!

<https://hareniko.com/>

・夜道も安心安全で明るいまち 専用歩道の環境が整った安全なまち 水戸市（提言書P5）

市民が望む場所に外灯が適切に設置されていることから明るい街のイメージが定着しており、夕暮れ時の薄暗い夜道や通学路を安心安全に歩けることが理想。

このことから、市民は夕暮れ時にも安心してお買い物やお散歩ができています。

また、歩行者が自転車や車等と接触するリスクのない道にあふれ、基本的に交通事故が発生しないことから、安心と安全の両方が叶う水戸市となっています。

特に、学生が通学路等として利用する道へ重点的に各種安全対策が施されていることから、子供達がのびのびと成長することができています。

以上により、このまちでは、「安全第一に考えられた生活がしやすい」ことにより、移住・定住が促進されています。

○安心と安全の両方が叶う明るいまちのイメージ

画像  
(著作権関係確認中)



対馬市厳原大町通り  
<http://asunotsushima.blog56.fc2.com/blog-entry-794.html>

水戸駅南口の写真

#### ・子育て世帯の居場所があるまち（提言書P6）

子育て世帯は、それぞれ親の状況や子供の性格、親戚の有無等によって多様な生活を送ることとなるため、子育てに伴う不安や負担も様々なものとなっています。例えば、親が共働きで子供をみれなかったり、子供が学校に対して不安を抱えていたり、身近に頼れる親戚がいなかったりする場合等が挙げられます。さらに、それぞれ、仕事内容や子供が抱える不安の内容、親が頼れる知人の有無や親の土地勘等によってこの問題はさらに複雑で複合的なものへとなっていきます。これらは子育てする上では避けられない問題です。

そこで、私がつくりたい水戸市は、公共施設等において子供と一緒に子育て世帯が集まることができ、楽しい交流が生まれているまちです。

具体的には、子育て世代を中心とした部屋の貸し出しがされており、常に室内で安全に子供を遊ばせながら、親同士の交流ができる場所が身近にあります。また、公共施設等においては、親子が長時間滞在できるような工夫が施されています。

そのため、子育てに伴う悩みの相談や有益な情報交換等を簡単に行うことが出来るため、皆で協力して子育てをしているまちとなっています。

このような水戸市では、安心して子育てができることから選ばれるまちとなっており、移住・定住が促進されています。

#### ・学校教育の環境が整い、安心して子どもたちが学び生活できるまち（提言書P7）

私が理想とする水戸市は、生徒が前向きな気持ちで登校して勉学に集中できるような環境となっており、学校も生徒の学びたい気持ちを最大限に尊重し、生徒の成長をサポートしています。

学校は多くの人と出会い、そこでの様々な交流によって学校ならではの経験が積み重なっていく大変貴重なものです。

一方、学校のように多くの人が集まる場では他者との折り合いがつかない状況が生じるのは避けら

れませんが、学校で子どもたちが取れる選択には限りがあるのが実態であるため、私が理想とする学校をつくるためには、この現実的に避けられない問題への対応が適切になされています。

例えば、現在1クラス的人数が35名体制となるよう、1学年ずつ5年かけて法令に従って、制度変更が行われている最中ですが、担任の他にサポートできる先生を各クラス1名程度配置をして子供たちのフォロー体制を整えていることや、勉強以外の学校生活面での悩み事を気軽に相談できる窓口（手段）が充実していることが挙げられます。

加えて、一人一人の先生が受け持つ業務量が適切な水準になるように職員数や業務量が管理されていることから、先生たちが無理なく働くことができるようになっていきます。そのため、過度な負担が無く、きめ細やかな教育が可能となっています。

また、コロナ禍における環境において不登校の生徒が増え続けている問題に関しても、教員の心に余裕が出れば、子供達が学校生活を送る中で生じる様々な悩みを先生に気軽に相談できる様になり、その問題を解決できる可能性が広がる為、水戸市の小中学校における悩み事の相談体制も重要と考えます。

さらに、子どもたちが自分の意思で選択できる範囲が限られているために行き詰まることが無いように、生徒の状況に応じた適切な選択肢が用意されています。例えば、不登校のように様々な原因が考えられるような問題もありますが、そのような問題においても、原因に対処するにあたって生徒の希望がかなうような選択肢が必ずあります。

以上により、市内の義務教育小中学校において、子供たちのサポート人員を増員し、勉強以外の学校生活面での悩み事を気軽に相談できる環境が整備されている事。特に子供たちの心のケアができ、子供達が不安な気持ちを持たず自由に安心して通学出来る環境が整っている学校である事が理想。

このまちでは、「学校に自分の居場所が必ず見つかる環境が整っている」ことにより、移住・定住が促進されています。

#### ・教育のまちMITO（提言書P8）

私が理想とするまちは、水戸市全体が学びの場となっている、教育の街である。

ここで、私が望む教育とは、机上での教育活動による限られた教育だけでなく、自然や社会に対する遊びや現地で実物に触れる機会の中から新たな気付きを発見していくものである。また、教育機関と市政及び産業が一体的に連携して動いており、社会全体で教育が実施されている。

例えば、自分たちのまちの中にある様々な史跡や自然に触れた際に、自分達の持っている知識を最大限に活用して、自分達の生活をより良くしていくものを発見していくようなものである。この時に、単に新たなものを発見するだけでなく、楽しく学べるような遊びとしての工夫も、学びの文化として組み込まれている。なお、遊びとしての工夫とは、直近では民間企業と連携してAR（拡張現実）のような最新の技術を活用すること等が挙げられる。

このように、理想とする水戸市では、教科書等から学べる知識だけでなく、フィールドワーク等を通してまちそのものからも学ぶことが出来るため、市民全体が非常に高い水準の思考力や気付く力を育むことが出来る。さらに言えば、こうしたフィールドワーク等から得られる学びの成果を最大限にするため、教科書等で身に付けた知識の活用方法を学ぶグループワークも各学校で活発に行われている。

こうして、理想とするまちの水戸市民は、目の前に存在する水戸市という街と面と向かって触れ合うことで、水戸市への誇りや郷土愛が非常に高いものとなっており、水戸市に対する知識も非常に深いものとなっている。このことから、各家庭においては親が自分達の子供に水戸市の歴史や街の姿を

普段から教えることができるため、子供も家庭教育を通して水戸市への誇りや郷土愛を育むとともに、知識を身に付けることが出来ている。

このようなまちで成長した水戸市民は、観光客や移住者等、市外から水戸市に訪れた方に対して適切な水戸市の紹介ができるため、市民全体が水戸市のイメージアップに貢献している。

○教育のまちMITOで行われているフィールドワーク等の学びのイメージ



出典：水城高校ホームページから

・ **どんな環境で生活する子どもでも高水準な教育を受けられる**

「子どものための教育施策により移住者に選ばれるまち（提言書P10）」

水戸弘道館の教えを現代版に解釈し、学問だけではなく武芸(スポーツ・芸術)も重点化した教育プログラムにより、教育移住者に選ばれる街を目指す。

【備考】

新型コロナによる新しい生活スタイルや働き方改革により、居住地の選定の方法が変わりつつあり、首都圏に勤務地を持つ人もこれまでの通勤圏外への市町村への移住も視野に入りやすくなった。親族等の居住地以外での選定理由は利便性と教育水準の高さである。その例として国際化を謳う軽井沢、科学技術水準の高さによるつくば市が挙げられる。

軽井沢やつくばの後追いをすることは難しいため、水戸独自に教育に力を入れてそれを可視化させることが必要だと考える。

東京をはじめとして各地からの移住を想定した教育に関する取り組みをここでは記載した。子供をもつ人だけではなく、単身者でも教育・訓練でメリットを感じてもらえることを目指している。

・ **家庭で子どもと接する時間とお金の余裕を増やせるまち（提言書P12）」**

サービス自体での親・事業者双方の作業・経済的負担を減らすことで親の可処分時間・所得を増やしコミュニケーションが多く楽しい家庭が多い水戸市を作りたい。

【備考】

全国的な傾向として共働きが増えており、水戸市・水戸市外の近郊エリア(昼間人口の市外からの流入者の居住エリア)に住む子育て世帯でも今後その傾向は増えていくと予想される。子供の妊娠時から就職し独立するまでの期間、多くの学校や保育園など子供を取り巻く環境は両親のうち片方が子

育てに専従できることが前提になっていると感じた。現在は両親ともに共働きの方が多く実態に即しておらず、帰宅しても子供のための毎日の準備に追われている。そこで水戸市の子育て施策として、現在の当たり前を全て見直し親の金銭的負担・作業負担を軽減することで家にいる時間のうち子供と接する増やせることを目指す。

保護者の可処分所得の確保については子育て家庭への給付や補助金による金銭的な負担を減らす施策は近隣の市町村が先行しており、子供の人口が比較的多い水戸市では市への財政への負担が大きくアドバンテージを持たせることは難しい。逆に水戸市の子供=サービス利用者の数の多さを利用して市が一括で契約、あるいは安価な汎用品を指定するなど全ての学校関連での購入物の見直しを進めて頂き、親の負荷を減らしてほしい。

## ②みとで働く

### ・産業が盛んで、雇用が創出されるまち（提言書P15）

私の理想とする水戸市では、第3次産業を核とした産業に活力があります。具体的には、市民の購買力が高いことにより民間企業の投資が活発に行われ、その投資がまた新たな投資を呼ぶ好循環が生まれています。また、そのような投資が市内金融機関の信用創造を促し、健全な資金循環が発生しています。それらに伴い労働者の賃金水準も非常に高く、日本を代表する経済のまちとなっています。

地域に目を向けると、新市民会館やアダストリアみとアリーナ等の新しい資源や、歴史的な資源が豊かな中心市街地の経済と、郊外の大型商業施設や新興住宅地などの地域が有機的につながり、強力な市内経済の循環が発生しています。

そのようなことからわかるとおり、水戸市では既存事業者の事業展開が順調で、新たな企業が積極的に進出していることから、地域経済が自立しています。

### ・若者が能力・個性を発揮できるまち（提言書P17）

私の理想とする水戸市では、若者（15歳以上39歳以下）が何事にも挑戦できる業種・業界・職種・企業があります。

昨今の若者は自分の好きなことや社会に貢献することを仕事でできること、自身が企業理念に共感できる企業で働くことを望んでいます。そのため会社では「社会や人から感謝される仕事がしたい」や「自分らしく生きたい」（※）といった意識を強く持ち、生き活きと仕事に取り組んでいます。

企業はチャレンジ精神を持つ若手人材の採用・育成に積極的で、長期的視点から若手のキャリアアップを支援することを通して、継続的な会社の成長を図っています。

社会が持続的に活力を持つためには若者が活躍し、成長していく環境が必要です。そのため、企業は、若者が能力・個性を活用するためにインターンシップなどの機会を設けています。

このように、若者は能力・個性を活かして会社と社会のために働きます。会社は若者が可能性を伸ばし発揮するための場をつくるとともに、社会貢献にも意欲的です。そうした環境を促進するために、社会は行政を通じて若者と企業活動を支えています。

そのような環境が形成されている水戸市は、若者が将来にわたって自己実現を達成することを応援するまちとなっています。

#### 【備考】

※日本生産性本部、2019、「平成31年度 新入社員『働くことの意識』調査結果」。

<https://www.jpc-net.jp/research/detail/002741.html>

### ・大人になっても学べる・スキルアップできるまち（提言書P19）

水戸弘道館の教えを現代版に解釈すると生涯教育が挙げられる。リスキリングやキャリア教育など社会人の学びが重要視される昨今学校に属していない人にキャリアアップのための学びの機会を提供すること



### ③ON/OFFもみとでいられるまちづくり

#### ・文化財が伝える、郷土の伝統が息づくまち（提言書P20）

私の理想とする水戸市では、水戸ならではの魅力的な文化財や伝統工芸品等（以下、「文化財等」という。）にあふれています。そのまちなみは、市民と社会がもつ文化財等への関心の高さによって生まれています。

市民は文化財等を深く認知し、水戸市の歴史と伝統に対する誇りをもっています。文化財等への理解は、学校教育で培われています。義務教育では授業や学校給食を通して文化財等について深く学び、児童・生徒の「伝統」に対する敬意を涵養します。

社会は、まちの生活空間を文化財等で彩っています。それにより、住民は文化財等に触れ合う機会に恵まれ、産業にも活用されています。社会全体で文化財等を育み、文化財等を通して地域に対する住民の愛着を高めることを、行政が市内外への広報を行うことで支えています。

文化財等に息づいている先人の知恵を市内外問わず共有すること、また不易流行の精神を大切にすることで、歴史感覚に支えられた活力ある社会環境が構築されています。

内閣府大臣官房政府広報室世論調査担当，2003，「文化に関する世論調査」内閣府，  
(<https://survey.gov-online.go.jp/h15/h15-bunka/2-5.html>).

水戸市市民協働部文化交流課，2021，「水戸市芸術文化振興ビジョン」水戸市，  
(<https://www.city.mito.lg.jp/uploaded/attachment/10658.pdf>).

水戸商工会議所，「郷土いいとこ再発見」水戸商工会議所HP，

([https://mito.inetcci.or.jp/110iitoko/tokusan/takara\\_m2h9ftb3.html](https://mito.inetcci.or.jp/110iitoko/tokusan/takara_m2h9ftb3.html))

#### ・ウォークアブルシティ・水戸（提言書P22）

私の理想とする水戸市は、市民も訪れた人も地域の特色を感じることが出来るため幅広い世代の人が水戸市内（主に水戸駅周辺）を歩いており、まちなかで交流・滞在を目的とする人々がどんどん増えていくまちです。このまちでは、地元企業や市民を巻き込んで、中心市街地が楽しいエリアになるように皆が中心市街地を盛り上げつつ、自分達も中心市街地を楽しんでいます。

水戸には自然を楽しめる千波湖や偕楽園、水戸城跡周辺地区のように歴史を知ることが出来る弘道館や水戸城二の丸角櫓等があり、更に、水戸駅北口から大工町までの国道50号線沿いとその路地には様々なお店が並んでいます。

水戸市の地域資源を活かしつつ歴史を始めとしたテーマ性のある街路空間を形成し、居心地の良い空間にしていくことで、車やバスではなく、居心地よく歩きたくなるまちになるのではないのでしょうか。

そこで、私がつくりたい「ウォークアブルシティ・水戸」とは、水戸駅～南町3丁目付近（下図参照）において、「水戸市の歴史あるまちなみを活かした、エリアを楽しめる空間デザイン」と「まちなか空間を盛り上げる、新たな楽しさと交流の創出」によって、行きかう人たちが思わず足を止めてしまうような楽しみに溢れています。

「水戸市の歴史あるまちなみを活かした、エリアを楽しめる空間デザイン」

たくさんの人で賑わうまちなかは、個人や団体、子供や大人、海外の方等に関わらず空間を楽しむ工夫が施されています。

例えば、二の丸隅櫓付近では漫画風の絵が施されており、歴史を学びつつも歩いて楽しめるようなデザインとなっています。

また、人を楽しませるポイントに対応するように、休憩できる場所やカフェ、ストリートファニチャー、ユニバーサルデザインの歩道、人を誘導するような標示（ピクトグラム等）が計画的に配置されています。

さらに、グリーンスローモビリティの運行やまちなかのDX化など、エリアを活用しやすい環境ができています。

これらのことから、訪れた人は楽しみを見つけるたびに足を止めて休み、自然とまた新しい楽しさを求めて別の場所へと歩いていくような環境ができています。

#### 「まちなか空間を盛り上げる、新たな楽しさと交流の創出」

広場や街路では音楽、食、健康というようなジャンルを問わないイベント等が活発に実施される等、まちなか空間を上手に活用して様々な活動が行われていることから、市民の交流の場として賑わいを創出しています。

例えば、旧県庁舎付近ではフラワー展示やアート作品やヨガ、大手門等でのプロジェクションマッピング、着物を着た若者による大手門から隅櫓方面への誘導、弘道館では書写、東部館では剣道、まちなかではヨガなどが行われています。

他にも、水府提灯を活用したナイトウォーク、着物（大正時代のもの等）のレンタル、市内カフェスタンプラリー、ワンコインで買い物できる500円商店街、人でにぎわう場所でのキッチンカーのように、移動しながら楽しめるイベント等が行われています。

これらのような賑わいが更に人を惹きつける好循環となっています。

以上のようなまちづくりを行うことでまちなかを歩く人が増え、まちの賑わいの創出→ローカルビジネスの売上増加に繋がるのが期待されます。さらに、交流が促進されることでコミュニケーション不足の解消、ウォーキングによる健康増進という利点もあります。また、自転車や公共交通機関を利用することで、地域交通の脱炭素等、様々な相乗効果が創出され、まちの賑わいの創出や交流が増えると考えます。

このように場所の魅力を楽しみながら移動でき、人を惹きつけるまちなかを形成する結果、水戸市の魅力度が向上し、関係人口を増やすきっかけになり、移住・定住の促進になります。

## ウォーカーシティ・水戸の図



### ・子育て世帯にとって便利で快適な生活空間が広がるまち（提言書P24）

私が理想としている水戸市は、子育て世帯にとっての生活必需品を取扱うお店が中心市街地に集まっており、交通手段も充実していることから、日々の暮らしに不便さを感じることなく快適に過ごせる町である。

具体的には、食料品を取扱うスーパーや子供服を取扱うお店が立ち並び、移動手段としてのバスは会社に関わらず同じ仕様で乗車賃を支払うことが出来ている。千波湖へ行けばジョギングコースが綺麗にされているためちょっとした自然を満喫でき、美術館に行けばドイツ等のようなコンサートやクラシック等の芸術を毎日のように堪能でき、市民会館ではいつでも気軽に利用することができ、借楽園や弘道館に行けば昔から変わらない歴史に親しむこともできる。

この町の中心市街地には20代～40代のサラリーマンの世帯が多く暮らし、勤務場所も中心市街地付近にあることから、中心市街地で生活を完結できる空間がつけられている。

一方、人口自体は市内一円に広がっていることから、中心市街地以外で暮らす人は普段から中心市街地へ出かけるような生活を送っている。

従って、私が目指す水戸市は市民全体が中心市街地で回遊し、中心市街地が盛り上がり、中心市街地の回遊者が増える好循環になっている。

このようなまちは、様々な施設が市街地近傍に集中しているから成せることだと考える。

### ・安全の魁のまち水戸（提言書P25）

「県内屈指の交通の要衝である水戸市は、中心市街地をさらにその核として安心・安全な道路、交通機関が市内一円に整備されているため、全市民が中心市街地に集まるまちとなっています。

また、私が目指すまちでは、全市民が中心市街地に集まる一方、市民が暮らす場所については郊外も含め市内一円に広がっているため、生活拠点と産業拠点が異なっています。

交通インフラ（ハード、ソフト）については、中心市街地を核として郊外にわたっても充実しているため、郊外から中心市街地へのアクセス性が非常に高い環境となっています。ここでの交通インフラの充実とは、道路の数が多いだけでなく、その質も高いものとなっており、雨の日の視界が悪い時

にも道路が見やすくなるような工夫が施されており、安全に車を運転できるような環境でもありません。

このように交通インフラが充実していることによって、中心市街地には多くの人が集まっているため、商業施設や銀行、公的機関等、様々なサービス提供施設が中心市街地に集約されています。そのため、市民は中心市街地に行けばどのような用事もワンストップで終わることが出来ます。

さらに、こうした交通インフラを安心・安全に使用する社会を目指し、交通ルールの啓蒙活動が活発に行われているため、路上駐車や自転車の通行等に関するマナーがとても良いまちとなっています。

ここで、中心市街地では次の点において歩行者にとって魅力的な環境が構築されています。

一つ目は、歩行者と自転車が分離される工夫が施されていることから、自転車との接触のない安心して歩ける環境がつくられています。また、車との接触の危険性のない交通空間ができているため、交通事故の発生が最小限に抑えられています。

二つ目は、歩道にゴミが落ちておらず、綺麗な印象が持たれており、気分良く通行することが出来ます。

三つめは、歩行者に反応する外灯等が計画的に配置されている等、光害にも配慮しながら犯罪を抑制する様々な工夫が施されています。

以上のように、私の理想とする水戸市では安全の魁のまちとしての評判が高く、移住・定住が促進されています。」

#### ・「よその」移住者でも仕事・家・主要地とのアクセスなど生活基盤を確保しやすいまち (提言書P28)

テレワークの普及に伴い勤務地から離れたところへの移住を検討する人が増える一方で、本人あるいは同伴する家族と暮らす住まいの利便性、市内外へのアクセスの確保が必至である。

#### ・自然環境にやさしいまち (提言書P30)

私が理想とする水戸市では、市民一人一人が長期的・広域的視点を持ち、私達の暮らすまちが自然環境と調和し、持続的に発展していけるよう行動しています。

このまちで暮らす市民は、資源循環に対して高い理解を持っているため、我々の行動の一つ一つが自然環境に影響を与えることで、次の世代につなぐ社会の良し悪しを決めていくことを自覚しています。そのため、市民は皆ゴミの分別を行い、ゴミのポイ捨てはせず、省エネ活動にも取り組んでいます。特に、子供を持つ親達は未来に対する責任を重く受け止め、人一倍環境に配慮した取組を行っています。

こうした市民活動を支える基盤となっているのが「エコみっと」です。エコみっとでは、環境に配慮した様々な運用がされているだけでなく、市民は自発的にエコみっとに対して『子供の未来を考えた町』の思いを込め、エコみっとを中心として環境に配慮したライフスタイルを送っています。

さらに、環境に配慮した取組は多くの人達の協力が無ければ効果が表れないことから、近隣市町村も巻き込み県央地域一体となって環境保全活動に取り組み、エコみっとを持つ水戸市はそのリーダーとなっています。

このような水戸市では、子供の未来を考えた町であることから選ばれるまちとなっており、移住・定住が促進されています。